

【速報】

「新型コロナウイルス（SARS-CoV-2）の変異株（アルファ株、ベータ株、ガンマ株、デルタ株）^{※1} に対し、次亜塩素酸水（電解型）^{※2} がウイルス不活化活性を示すことが確認されました。」

■概要

国立大学法人帯広畜産大学と一般社団法人日本電解水協会との共同研究により、次亜塩素酸水（電解型）が新型コロナウイルスの変異株（アルファ株、ベータ株、ガンマ株、デルタ株）を不活化することが確認されました。

※1：hCoV-19/Japan/QHN001/2020：アルファ株、hCoV-19/Japan/TY8-612-P1/2021：ベータ株、hCoV-19/Japan/TY7-501/2021：ガンマ株、hCoV-19/Japan/TY11-927-P1/2021：デルタ株
(いずれも国立感染症研究所より分与)

※2：食塩（NaCl）を電気分解して生成された強酸性次亜塩素酸水と塩酸（HCl）を電気分解して生成された微酸性次亜塩素酸水

■試験結果

有効塩素濃度約32ppmの強酸性次亜塩素酸水および微酸性次亜塩素酸水（HCl電気分解）はいずれも、20秒間の処理により99.98%以上のウイルスを不活化した。^{※3,4}

※3：各試験水とウイルス液の混合比は「19:1」

※4：各種電解水の有効塩素濃度は食品添加物公定書の定量法での測定値。